

## 8-2 備前と京都の違い—アンケート・聞き取り調査から—

森脇裕子

### はじめに

京焼と備前、京都市と備前市、全く異なるやきものと地域ではあるが、観光や登り窯をめぐる問題など、共通点もある。備前の窯元に対するアンケート調査の成果を中心にして両者を比べてみたい。

### I どんなものか

そもそも備前焼とはどのようなやきものなのか。簡単に説明しておこう。

#### 1) 備前焼

備前焼きは一般的には次のように説明されている。

備前焼は瀬戸、常滑、丹波、信楽、越前とともに日本を代表する六古窯のひとつに数えられている。また、産地の地名を取って「伊部焼」とも呼ばれている。

備前焼にとって、土ほど大切なものはない。いっさい釉薬をかけないので、焼くと土の地肌がそのまま出る。土の良し悪しが作品の肌の美しさを決定する大きなポイントになるため、備前の陶工たちの土に対する執念は大変なものである。土探しから実際に掘るまで、そして乾燥させたあとのロクロの上で成形できるようにするまで、全部自分の目でチェックし、自分の手で確かめている。こうしてしっかり吟味された最高の土を使って作られる備前焼は、焼けばいっそう味が出て最高の作品が出来上がる(注1)。

ところで、備前焼とはどんなものか、定義は何か、良さとは何か、実際に備前焼を製造している人はどう感じているのかアンケートを実施した。備前の伊部周辺で備前焼製造に従事していらっしゃる窯元22名にアンケートの回答をお願いしたところ、17名から回答していただくことができた。

窯元の考えは次の通りである。

伝統の技法(製法)を護って今日がある。備前焼は・器の種類であって陶器ではない。・器技法で約1000年かたくなに護られてきました。3000年昔、地中海沿岸では、・器の器で鯛の魚醤を造り、パスタの味付けに用いている。(現代も行われている。200年前昔の中国の『本草経』には、中国では水質が悪くて呑めない水を沸かして・器の器に容れ汲み置くと毒気が去る、とある。1000年昔より、備前水がめ水がくさらん、と云われて、鎌倉・室町・桃山時代には、水や穀物の保存に重宝された。このような実用の機能性を秘めている(注2)。

本来備前焼は、登り窯、穴窯による松割り木で焼成したもので、土は備前の田んぼ土と山土のブレンドで1200度くらいの温度にたえることと、釉薬は使わない焼しめのやきものだと思っています。コストを下げるためなどに角窯、ガス窯、電気窯等を使う方が増えていますが……。登り窯で焼いた自然美の作品で世界に一点の良さと、使うほどにつや、色が美しく変化してつるつると手になじむ、などの良さもいろいろあります(注3)。

伊部の地下3m~5mのところに堆積された、伊部の地形、環境に育った土を使

い、燃料を赤松のみ使用し、10日～15日間の長時間焼き続け、窯も昔のままの形式で自然を重視、量産ではなく工芸品として作られている為、用の目的にくわえ、一点一点鑑賞的価値がある。日本には茶道や華道があって、器を鑑賞します。日本独特の文化の中に育ったともいえるのではないのでしょうか（注4）。

それぞれ、備前焼の魅力、備前焼への思いを語ってくださった。

他にも、「無釉陶と手造りの素朴の味わい」、「無釉で土を焼き締める」、「無釉の土味」、「手造り感」、「釉薬不使用と良質の原土を使用して徹底的に焼成をすること」、「焼き締め陶、野暮、伝統文化、地方色、特殊焼」、「登り窯、無釉」、「備前本来の土の力」、「焼シメの焼物として、ただ一つ残っている点。登り窯など、木と燃料とした、自然に出る味」、「土と炎の素朴な表現」、「釉薬を使わない焼成の『自然美』『おおらかさ』『素朴な土のにおい』」など、アンケートから数々のご意見をいただいた。

備前焼の良さは「無釉」「手造り感」「自然美」といった回答が多く寄せられた。アンケート回収時に少しお話を聞かせていただいた方からも、「手造り」「素朴」、これに尽きる、という回答が多かった。私自身も見た目のシンプルなところにとっても魅力を感じる。土そのものの良さがそのまま出ている、素朴で温かい感じがする。備前焼が国の伝統工芸品に指定されて何人も人間国宝を生み出しているのも、このような自然の美しさが昔から理解され評価されてきたからであろう。

## 2) 京焼

京焼は京都で生産される陶磁器の総称であり、雅やかな高級品である。最近では観光土産店で安価で素朴な製品も見られるが、今でも五条坂界隈では華やかで高級な製品が見られる。京都でも小売店を対象に、京焼・清水焼のイメージについてのアンケート調査を行った（2005年10月27日、31日実施 調査員：上野・林・増田・小林）。そのアンケート結果を参考に見せてもらってが、京焼のイメージは、という質問に対しての回答は、「伝統的」、「良質」、「高価」などで、一番多かったのは「優雅」という回答だった。手描絵付けによる色絵陶磁器が一層華やかに見せているのだろう。

## II 組合の取り組み

やきものを生産している産地のほとんどで、組合が結成されている。10産地のうち8産地で協同組合、1産地で任意組合が組織されており、全く組合を組織していないのは萩焼のみである。またこのうち4産地では複数の組合が組織されている（注5）。

### 1) 備前の組合

備前焼では岡山県備前焼陶友会という組合が一つだけ作られている。

江戸時代までは「木村、森、金重、大饗、頓宮、寺見」の六家、いわゆる「窯元六姓」のよる3基の大窯の焼成を中心とする共同の組織が存在したが、その内容の詳細については不明な点が多い。戦前には組合は存在しなかった。しかし戦後まもなく7窯元により備前焼窯元組合が設立され、昭和27年には備前焼関係者の親睦を目的として、備前焼陶友会を結成している（注6）。

岡山県備前焼陶友会（以下、「陶友会」と略する）の事務局長によると、陶友会は次のような組織である。

陶友会は昭和27年に備前焼の親睦団体として誕生したのが最初です。その後昭

和 48 年に「陶友会」として今の協同組合へ成長しました。今のこの組合は、会員どうしの親睦を深める会といった感じです。現在事務所で私（事務局長）を含めて 5 人の職員が働いています。作家さん、窯元さんなどの会員は現在 205 人です。会員からの会費で運営しています。職員は備前焼作家とかではなく、まったく普通の人がばかりです。たった 5 人の職場は忙しいです。

仕事内容は主に企画と販売の手伝いと、備前焼の PR です。企画は備前焼まつりに一番力を注いでいます。他にも県外のデパートへ展示販売の企画などがあります。販売の手伝いとは、各窯元さん、作家さんから 4、5 点の作品を預かってここ（伊部駅 2 階）にて展示販売しています。委託販売です。ここでは全会員の作品が販売されています。

陶友会を通して全国のデパートなどへ販売することもあります。ほとんどは作家さんの独立販売です。皆さん自分のお店を持っていらっしゃるのそこで販売するか、個人でデパートなどに売り込んだりしている人もいます。陶友会を通す場合は売り上げの何%かを手数料としていただきます。そのときの企画はこの事務所の職員が考えています（注 7）。

備前焼陶友会の会員の特徴としては、作家や窯元単位の個人経営であり、全部一人でやる、という点だろう。備前焼作家は一匹狼というイメージが持たれているのも、この個人経営のスタイルからきているのだろう。自店舗以外の小売店へ商品をおろす場合も組合側から依頼があつてすることが多いということがアンケート調査からわかった。陶友会という組合は「親睦団体」として存在しているという考えが強かった。また最近では陶友会の下に備前育陶会や備前陶心会という若手作家中心の団体もでき、展示会などを行っているようだ。

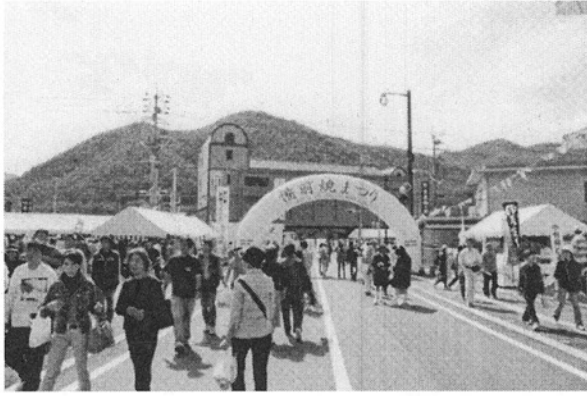
## 2) 京都の組合

備前焼組合が単一なのに対して、京焼の組合は複数で組織されている。中小企業等協同組合による法人組合として、陶磁器製造家の組合が地区ごとに個別に組織されている。その製造家の組合と、陶磁器卸の組合の連合体として、京都陶磁器協同組合という連合会が昭和 50 年に組織された。活動内容も、備前が販売事業や、備前焼 PR 活動に重点を置いているのに対して、京都は、組合員の研修や、京都市内や地域都市での展示会などの需要開拓に重点が置かれている。清水団地の陶器まつりも活動の 1 つである。

## 3) 組合の企画

陶友会が 1 番力を入れている企画が年に一度、10 月中旬に行われる備前焼まつりである。毎年、全国各地から観光客が 15 万人ほど来ているという。

備前焼の PR のため会としてはいろいろとしているのですが、観光客は年々減ってきています。新幹線が開通した年がピークでした。備前に来る観光客の目的は備前焼を買うことなので、備前焼まつりのとき以外では観光客はほとんど来ません。備前焼まつりの観光客は毎年横ばいで、去年も 2 日間で 16 万人来ました。だからその備前焼まつりのときの観光客を確保するために、まつりの前、8 月下旬から 9



歩行者天国になった伊部駅前(2005年10月16日)



店頭で売られる備前焼(2005年10月16日)

月下旬の1ヶ月間はPR活動をしています。備前小町というキャンペーンガールの女の子と全国へ(東は東京から四国まで)PR活動を行います。その土地の新聞やテレビなどの報道関係へアピールします。地元新聞の山陽新聞には4、5回は広告を掲載させてもらっています。このような努力もあり、毎年東京や、北海道からなど、全国からお客さんが来てくれています。

備前焼まつりでは、いつもの作家さん各自のお店のほかにテントの特設備前焼販売所を設けます。歩行者天国にする通りもあります。お楽しみ企画も満載です。陶友会としては作家さん、窯元さんの販売手伝いをする感じです。販売する場所は提供しますが、販売するのは作家さん、窯元さん本人です。備前焼を作る人が主役のまつりです。販売する側も、備前焼を買い求めに観光客がたくさん来るので、チャンスを逃すまいとがんばる時期です。結果が利益につながるので会員たちが自ら売れるような工夫をしてきます(注8)。

2005年も10月15日・16日に備前焼まつりが開催された。残念ながら初日は雨の中での開催となってしまったが、それでも2日間で12万人ほどの観光客が備前を訪れたという。駐車場がもっとあればもう少し観光客が来たかもしれないが、悪天候だった割には成功といってよいだろう。

毎年大勢の観光客が訪れる備前焼まつりだが、まつりで何かトラブルは起きていないのか。以前陶友会事務局にて、「平成9年度 備前焼実態調査報告書」を見せていただいたが、そこには、「今の備前焼まつりの内容では、儲け主義に走りすぎ、安売りしていて、備前焼のイメージダウンにつながる。優秀な作品を発表するようなまつりにするべきではないか」というような意見も記されていた。

備前焼まつりの問題点について、数名の窯元にお話を伺った。

備前焼まつりは、今は2日間の日程で行っている。別に今のままだでもかまわないが、一週間ほど続けてやればいいのかと思う。でも銀行の駐車場とかを借りて特設売り場をつくっているはその土地を一週間も借りるのは無理だから仕方ない。

私も陶友会から依頼があって、今年は抽選会場の商品渡しの役割をした。毎年、何かしらまつりの手伝いの依頼はある。半日はまつりの手伝い、半日は自分の店で販売する。会員は全員、半日交替で手伝っている。伊部周辺に自分の店を持つ作家はそれでもいいが、遠方に自分の店を持つ人は、陶友会の会員であるから備前焼まつりの手伝いはしなければならないが、自分の店には観光客があまり来ないためメ

リットがない。伊部周辺の人には出店すれば恩恵があるが、遠方の人にも恩恵があればトラブルは起きない。また、とても広い範囲でまつりが行われているため、傷物とか、B級品が売られていても気付かれず、取り締まれない。範囲はもっと目の届く範囲の方がいい。

まつりでは、陶友会の会員ではない人もお店を出している。その人た

ちは会員の店の価格よりもさらに安い価格で販売している。陶友会会員の商品は全品2割引と組合に決められている。それで、観光客が安売りに慣れてしまって、相場もこんなものだと思い込んでしまう。まつりでないときにも安売り（値引き）をしないと商品が売れなくなる。大阪のおばちゃんは特にひどい。この値引きを止めるために陶友会に動いてもらいたい。今度、備前焼まつりの反省会がある（注9）。

備前焼まつりに10万人以上の人があると、住民の日常生活に支障をきたすけれど、自動車の移動とか音が大きいとか、ごく一部の人の問題でしょう（注10）。

というようなご意見が得られた。

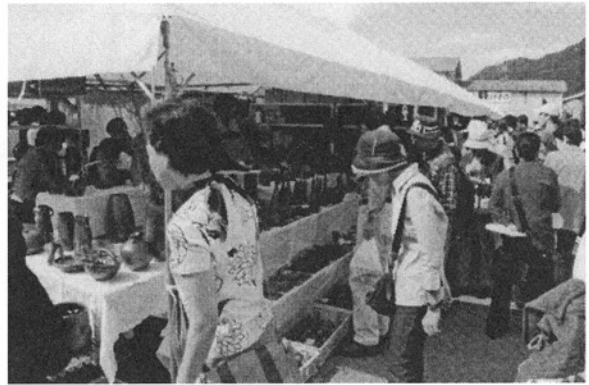
「平成9年度 備前焼実態調査報告書」に載っていたような安売りによる備前焼のイメージダウンという問題は、今年はそれほど深刻ではなかったようだ。まつりのときよりも、むしろ普段の観光客の値引きの方が問題であるというようなご意見もあった。今から8年前の調査のため、時代が替われば状況も変わったのだろう。

大勢の観光客が来ることによる自動車の渋滞や騒音という問題については、ごく一部のことであり、大きな問題にはなっていないようだ。これは備前はやきものの町であることや、備前焼まつりは陶友会が一番力を入れている企画であることなどから、地域住民の理解があるからだろう。

京都でも京焼・清水焼を中心とした陶器を販売する目的のまつりが開催されている。会場は清水団地や五条坂である。今年7月19日に、清水団地で行われていた陶器まつりに私も行ってみた。京都駅から直通のバスが出ているなど、行きやすい環境が整っていた。私が行った日は平日だったためか人はそれ程いなかったが、時間が経つにつれてにぎわってきた。値引きについては、まつりだからといって格別に安売りしているという感じは受けなかった。私がかわいいなと思って見ていた商品は数万円するなど、まつりといえども高級なイメージは崩れなかった。清水焼はやはり、華やかで高級なものであるという印象は変わらなかった。

#### 4) 煙害問題

現在、伊部の町において窯元と地域住民との関係で不安に感じていることの一つに煙害問題がある。煙害問題については、陶友会が主体となって、岡山県備前陶芸センターにおいて、さまざまな調査・研究を行っているが、解決には至っていない状況である。陶友会



特設会場のテント(2005年10月16日)

の事務局長、数名の窯元にお話を伺った。

公害はあるかもしれないが、住民との関係で大きな問題になったことはないです。備前は備前焼の町として栄えているので民間からの理解もありますし、作家さんたちも住民を理解しています。お互いの信頼関係が大切です（注11）。

煙害については、ブームのとき（5、6年前）はあった。今はそれほど深刻ではない。私の窯も、隣がマンションだが、苦情は今のところきてい

ない。場所によってはトラブルがあるが、数は少ないし、私のところは大丈夫。登り窯で焼成しないと備前焼ではない。備前焼の存続に関わる問題である（注12）。

備前の場合はどうしようもない。近くの家迷惑を掛けるが、許してもらえない。陶芸センターへ研究費を出してやっているが思うようにいかない。住民からの強い反発もあることはあったが、今は聞かない（注13）。

他にもアンケートからさまざまな回答をいただいた。中でも印象的だったものが、「煙が出ないと備前焼でなくなる。割り木を使う以上防げない（注14）」という回答である。これこそ備前焼作家の本音ではないかと思う。やきものを焼く以上、煙が出るのは仕方がないのであろう。

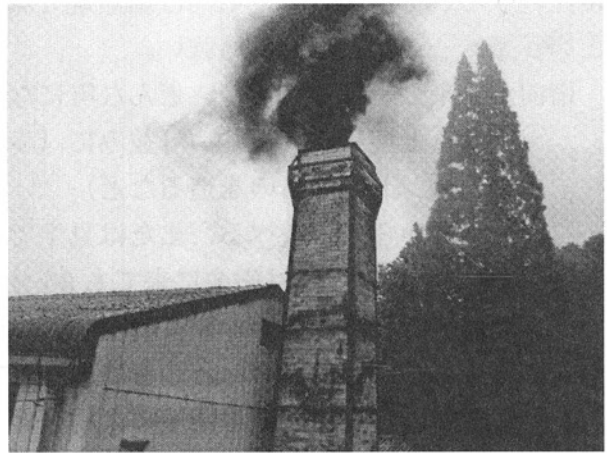
この問題については、誰もが深刻に考えているものの、やはり地域住民の理解を得る以外に方法がないといった感じである。事実、5・6年前には煙害に対しての苦情がかなり寄せられたらしく、陶友会でもそのころから問題解決に動き出したそうだ。その後の活動により、地域住民と備前焼作家との理解・信頼関係により問題は以前ほど大きなものではなくなったものの、やはり若干の問題は残っている。

備前での煙害問題がそれほど大きくならなかったのは、備前の地理的状況にもよる。備前の伊部周辺は至るところに窯の煙突が立っているが、田舎であるため煙が出て近隣住民が我慢する程度ですむ。また、伝統産業として備前焼が昔から認められているところであり、備前イコール備前焼というイメージが住民にも定着しているため、元々、近隣住民の理解もある。

一方、京都は備前と違って都会であり、周辺に暮らしている住民の数が備前と比べてはるかに多い。またやきものの町というよりも、お寺だとか、紅葉だとか、観光地として栄えているため、住民に理解しろといってもなかなか難しい。実際、茶碗坂でも、清水寺へ行く途中にちょっと寄っていこうという感じで訪れる観光客が多く、陶器を買うためだけに訪れる観光客はほとんどいないようだ。このような点から地域住民との関係が上手くいかないのではないかと考えられる。

### Ⅲ 京都との比較

これまで京都と備前を比較してきたが、京都と備前は様々な意味で環境が違いすぎて直



備前焼登り窯の煙

接比較することは難しい。備前は備前焼で成功した町で、京都は歴史と観光で成功した街というイメージがどうしても強い。

備前が将来どうなるべきか、どんな町になってほしいかを伺った。

もっと焼物の町らしい町並みに（歩道、車道に備前焼のタイルをはる、各所にモニュメント的なものを造るなど）

半日から一日遊べる、または見学できる備前焼公園を造る（自然の森を利用して）。今の観光客は備前に来ても30分から1時間ほど窯や仕事場を見学するだけで帰ってしまう。その程度の時間では備前の良さはわからない。また、たまに来るお客さんにどこかいいところはありますかと聞かれても美術館とか、閑谷学校とかしかない。京都の清水団地のようなところが備前にもできてほしい（注15）。

焼物の郷、1000年の歴史を感じられる町として、日本人の心のふる里として、いつまでも栄えてほしいですね。自然を大切にと思う心も、すべての人が一体にならないと破壊されますね。立派な公園も、人（来客数）が少ないと管理、維持できないし、多すぎると破壊されるし、バランスが難しいですね（注16）。

というように、備前の将来を願う声もある。

備前と京都、それぞれやきものの町と観光の町として良いところがあるので、それぞれそこを大切にしていってほしい。

## おわりに

この調査をきっかけに、何度も備前の町を訪れた。初めて備前を訪れたときは、想像以上に煙突ばかり建っていて、やきものの町という感じで驚いた。

備前焼で飲むお酒やお茶はおいしい、とよく言われる。備前に立ち並ぶやきものの店でも徳利とお猪口のセットや煎茶器のセットをよく見かけるし、店頭で売っているピアマグは、ビールの泡がきめ細やかになりおいしい、などと説明されている。近年、備前焼の魅力には「おいしさ」も加わっている。科学的な特性が魅力として再認識されつつある。

美しい町並みと、備前焼そのものの手造りのぬくもりという魅力を大切に、これからも備前焼のふるさととして煙を上げ続けてほしい。

この報告書を作成するにあたって以下の方々にお世話になりました。ありがとうございました。（五十音順、敬称略）

一陽窯 木村宏造、鬼ヶ城窯 難波総城、金重利陶苑 金重利右衛門、窯元備前一 大平一誠、木村興楽園 木村長十郎友敬、小西陶古、五郎辺衛窯 武用光一、山麗窯 小松知子、春湖苑 林弘、松園 武用一貫、桃蹊堂 木村桃山、陶正園 木村陶峰、柴岡陶泉堂 柴岡香山、備州窯 山本宗秀、備前永楽窯 細川敬弘、備前陶苑 細川敬弘、備前陶芸南燦窯 三村進洋

### 〈注釈一覧〉

（注1）藤原啓、藤原雄『日本のやきもの 備前』（淡交社1985年）p. 89より引用・改変

（注2）備前周辺で備前焼製造に従事している窯元対象のアンケート調査より 3名の回答を抜粋（2005年11月実施 調査員：岡下・森脇）

- (注 3) 備前周辺で備前焼製造に従事している窯元対象のアンケート調査より 3名の回答を抜粋(2005年11月実施 調査員:岡下・森脇)
- (注 4) 備前周辺で備前焼製造に従事している窯元対象のアンケート調査より 3名の回答を抜粋(2005年11月実施 調査員:岡下・森脇)
- (注 5) 羽田新『焼き物の変化と窯元・作家—伝統工芸の現代化』(御茶の水書房2003年) p. 126より引用
- (注 6) 羽田新『焼き物の変化と窯元・作家—伝統工芸の現代化』(御茶の水書房2003年) p. 130より引用
- (注 7) 岡山県備前焼陶友会 事務局長のヒアリングより要約(2005年7月27日実施 取材者:森脇)
- (注 8) 岡山県備前焼陶友会 事務局長のヒアリングより要約(2005年7月27日実施 取材者:森脇)
- (注 9) 柴岡香山氏のヒアリングより要約(2005年11月21日実施 取材者:岡下・森脇)
- (注 10) 備前周辺で備前焼製造に従事している窯元対象のアンケート調査より抜粋(2005年11月実施 調査員:岡下・森脇)
- (注 11) 岡山県備前焼陶友会 事務局長のヒアリングより要約(2005年7月27日実施 取材者:森脇)
- (注 12) 柴岡香山氏のヒアリングより要約(2005年11月21日実施 取材者:岡下・森脇)
- (注 13) 木村陶峰氏のヒアリングより要約(2005年11月21日実施 取材者:岡下・森脇)
- (注 14) 金重利右衛門氏のヒアリングより要約(2005年11月21日実施 取材者:岡下・森脇)
- (注 15) 柴岡香山氏のヒアリングより要約(2005年11月21日実施 取材者:岡下・森脇)
- (注 16) 備前周辺で備前焼製造に従事している窯元対象のアンケート調査より抜粋(2005年11月実施 調査員:岡下・森脇)

[参考文献]

- 羽田新『焼き物の変化と窯元・作家—伝統工芸の現代化』(御茶の水書房2003年)
- 藤原啓・藤原雄『日本のやきもの 備前』(淡交社1985年)
- 岡山県備前焼陶友会『平成9年度 備前焼実態調査報告書』